

第118回城山地区まちづくり会議全体会結果

日 時：令和7年7月31日（木）

午後7時～午後8時30分

会 場：城山総合事務所本館2階B会議室

出席者：19名（欠席4名）

傍聴者：1名

1 開 会 内山所長

2 代表あいさつ 林代表

3 議 題

（1）令和7年度城山地区まちづくりを考える懇談会について・・・資料

各班（A班、B班）に分かれ、「地域の居場所づくり」について「地域ができること」「地域と行政が協働してできること」「行政へ支援を求めること」を視野に入れながら今後の取り組みについてグループ討議による検討を行った。

< 主な意見等 >

A班

①地域にできること

- 居場所づくりに係る人の組織化をする。
- 若者（小4以上）の居場所を地域につくる。
- 地域の居場所となる活動をもっと増やし、拡大していく。
- 困っている人に情報が届くように工夫をする。
- 地域の住民が「本当に何が足りなくて」、「どういう側面で支援を必要としているのか」などのニーズ調査をする。
- 各種サロン（高齢者、子育てなど）のような目的を持った限定的な事業を増やすと同時に多世代・多様な人たちがいつでも集まれるような居場所をつくる。

②地域と行政で協働してできること

- 各地域で事業や活動を実施していると思うが、地域間で情報の共有ができていないため、どこで何を実施しているのか不明である。そこで、地域全体を俯瞰し、まちづくり会議の構成団体間で情報を共有する。また、行政でも同様に地域で実施している活動について俯瞰して把握してもらう。
- ニュースポーツに係る協会をつくるが、継続して運営することが困難であるため、市の支援を受け市の大会として、子どもや青年が集まる拠点となるように

目的を持たせた大会を実施する。

- 居場所の目的によってはボランティアでは限界があるため、専門的な知識を持った人とタッグを組む。
- 居場所をつくっても、場所によって移動手段が必要であるため、場所の選定について情報を収集する。
- 居場所の運営に係るアドバイス、事故防止対策、損害賠償責任などに対応する保険へ加入など行政と協働して実施する。

③行政に支援を求めること

- 地域の居場所づくりに係るビジョンの位置づけについて行政の意見を聞く。
- 施設のハード面（修繕など）について行政の支援を求める。
- 子育て支援センターを区役所ではなく各子どもセンターに設置する。
- 行政へ支援を求める際、事業内容によって担当部署を跨ぐ場合があるため、縦割りではなく横断的な支援を求める。
- 居場所づくりに係る事業予算の支援を求める。
- 運営が煩雑にならないような規制の緩和、運営に係る助言、スタッフの研修などきめ細やかな支援を求める。
- 関係人口として、学生などの若い力をどのように生かしていくのか行政の意見を聞く。
- SDGsを具体的に取り組むための環境をつくる。

B班

①地域にできること

- 事業を実施する際も本当に来てほしい方へ情報が伝わっていない場合が多々あるように感じている。例えば「自治会に入っていないと回覧板が届かない。」「新聞を取っていないと広報紙が届かない。」「施設に情報誌などが置いてあっても取らない。」など、本当に必要な人に情報が届いていないのではないか。このようなことを踏まえ情報発信する際に工夫する。
- 居場所をつくっても場所によっては移動手段が不十分な状況である。例えば、公民館で事業を実施した場合、小倉や葉山島など車などの移動手段がないと参加しにくい状況である。このようなことを踏まえると身近な自治会館を地域の居場所として活用する。
- 移動図書館のように定期的に各地域に出向いて行き、公民館行事などを自治会館で実施し、そこで必要な情報発信を行うなど工夫する。そうすることで双方向のつながりも図られると考える。
- 若葉台では地域の情報発信の方法として、ごみステーションを活用して地域住民へお知らせしている。
- 各自治会で実施している活動を地域で共有する。

- 各自治会により加入率や地域性が異なるが、地域の居場所としては自治会館を活用する。
- 役員などになると大変だが、地域活動を通じて地域とのつながりを図る。

②地域と行政で協働してできること

- 小さい子どもがいる方には、予防接種の時に情報発信するなど工夫をする。
- 地域の情報が市から全戸へ伝わるような方法があれば良いとの意見があったが、そうすると自治会に加入しなくても地域の情報が入手できるので自治会に加入するメリットが減ってしまうとの意見があった。

③行政に支援を求めること

- 自治会加入率の低下や育成会の衰退の要因として、「入ってもメリットがない」、「役員をやりたくない」などが考えられる。今後活動を継続するためには、有償ボランティアなどのような仕組みづくりを求める。

その他全体的な意見

- 学童対象外（小学生4年生以上）の子どもが安心・安全に過ごせる場所が必要である。場合によって共働きの家庭では、小学校4年生の児童が朝8時から夜7時まで1人で過ごすような状況もある。最近では、猛暑のため日中外で遊べないなど、子どもたちの遊び場がない。例えば「児童クラブの容量を増やす」、「新たに安全な遊び場をつくる」又は「地域で子どもたちを集め居場所をつくる」などが実現できれば、子育て世帯の親は助かると思う。
- 高齢者（自治会館などで趣味の集いなど）や子ども（育成会、子ども会など）の居場所については地域にもある程度あるように思われるが、40代から50代位の子育て世代の居場所がないし、地域でサポートができていないと感じている。このような状況を見ると、世代間で分断されており、世代間交流が図られていないイメージがあるため、地域として世代間が交流できる場を設け、多世代がつながる様な居場所づくりができれば良いと考えている。
- 高齢者が子どもを受け入れるような居場所があっても良いと思う。しかし、子どもを受け入れるには損害賠償などの責任問題をどのように対応するのが課題になる。
- 上記の損害賠償などの責任問題については、運営する側と参加する側の双方で責任を持つことを承知したうえで運営できるような仕組みが必要である。また、運営する側の人材に対し無償ボランティアではなく、適切な対価（報酬や謝礼）を支払い、責任をもって運営してもらうような仕組みが必要である。
- 社会貢献を掲げる企業などの協賛を得て地域の居場所づくりに係る事業を実施する。例えば、保険会社の協賛を得て事業に係る補償をしてもらうなど。なお、その際にもある程度の事業費がないと事業もできないと思う。

- 企業などの協賛を得る際も、企業の社会貢献を地域へ周知するなど、企業側のメリットがないと協賛は困難だと思う。
- 居場所づくりについて、各自治会によって地域性が異なっているので、各々地域に合った対応が必要である。

《 結果 》

- ・上記意見を踏まえ役員会へ諮り、令和7年度城山地区まちづくりを考える懇談会に向けテーマに係る内容を取りまとめることとなった。

(2) 城山地区で具現化していく取組について (部会検討) 資料

全体会終了後に各部会に分かれて検討を行い、検討終了後にそれぞれ解散となる旨説明があった。

4 その他

・各構成団体からの連絡事項等

城山商工会 平栗委員

○相模湖地域ではバレエを中心とした芸術・文化のまちづくりに取り組んでおり、相模湖芸術・文化のまちづくり実行委員会により「さがみ湖野外バレエフェスティバル」の開催を予定している。

また、「相模湖周辺地域におけるバレエ等による『芸術・文化のまちづくり』に関する要望書」を神奈川県(7/7)と相模原市(7/23)に提出した。なお、要望したのは相模原市観光協会、相模原法人会、相模原商工会議所、津久井青年会議所、城山・津久井・相模湖・藤野の各商工会と各観光協会、神奈川県商工会連合会の計13団体である。今後は、相模湖地域だけではなく市全体で相模湖の活性化に向けた取り組みを進めて行く予定であるため、情報提供をするもの。

○湖月荘の跡地利用について、公園課が有効利用を検討しているが中々決め切れていない状況である。なお、令和3年に市からソーラーパネルの設置について地元の中沢自治会などへ提案をしたところ、地元からは厳しい意見があったようである。

このような中、城山地域全体の意見を伺う場として、まちづくり会議で話をしたいとのことであった。このため、公園課から改めてまちづくり会議へ話があると思うので情報提供するもの。

5 閉 会 林代表

【全体会終了後の各部会での検討内容】

●高齢者とともに築き支える地域づくり部会

これまで部会で検討してきた「しろやま☆おせっかい」の取組として、おせっかい風土を広めるための活動を行ってきたが、新任の委員にその活動内容の説明を行った。

《 主な意見 》

- ・バンダナを作成しており、今まで協力してくれた人にこれから配る予定である。スタッフも含め、配布したい。
- ・この部会の活動は一段落ついたところなので、次の総合計画・都市計画マスタープランに沿った新たな部会を作るのか、それを待たずにまちづくり会議として課題を見出して新たな取組みを始めるのか、皆さんの意見を聞きたい。
- ・次回の部会で、皆さんの意見を聞いて、今後の方向性を決めていきたい。

●子どもたちの主体性を育む地域づくり部会

これまで部会で検討してきた「あつまれ～しろやまっこ！」の取組について、11月15日開催予定のモルック大会に向けた内容確認を行った。

《 主な意見 》

- ・モルック大会の開催時間を9時から12時としていたが、3時間は長すぎて大変なので、10時から12時とする。
- ・前回開催時に受付時間を設定していなかったため、開始時間ギリギリで来た方が多かった。今回は受付時間を設定することとしたい。
- ・あつまれ～しろやまっこ！のチラシを川尻小学校の子どもたちに作成依頼していたが、8枚候補があるので、印刷するものを決めたい。
→子どもたちが推薦する1枚を採用することとした。
- ・印刷から外れたものも、パウチ等をして掲示することとしたい。

以 上

第118回城山地区まちづくり会議出欠席者名簿

任期: 令和6年4月27日～令和8年4月26日

番号	分野	団体名	役職等	委員氏名	出欠
1	地域関係	城山地区自治会連合会（会長）	代表	林 和博	出席
2		城山地区自治会連合会（副会長）		中野 秀人	出席
3		城山地区自治会連合会（副会長）		安西 勝正	欠席
4		城山地区自治会連合会（川尻小学校区）		神藤 元	出席
5		城山地区自治会連合会（湘南小学校区）		高橋 章	出席
6		城山地区自治会連合会（広陵小学校区）		渡辺 政茂	出席
7		城山地区自治会連合会（広田小学校区）		渋谷 隆	出席
8	保健・福祉関係	城山地区社会福祉協議会	副部長	小島 盛生	出席
9		城山地区民生委員児童委員協議会	副代表	菅野 敬子	出席
10		城山地区シニアクラブ連合会		阿部 晃三	出席
11		相模原市赤十字奉仕団城山分団	部会長	宗田 真理子	出席
12		城山地域包括支援センター		林 多加史	出席
13	産業・経済関係	城山商工会		平栗 文夫	出席
14		城山観光協会		櫻井 かおる	出席
15	防犯・防災関係	安全・安心まちづくり推進協議会城山支部		杉本 直宏	欠席
16		相模原市消防団北方面隊		田野倉 隆彦	欠席
17	教育関係	城山公民館運営協議会	副代表	高野 朝枝	出席
18		城山体育振興協議会		樋口 保	出席
19		城山地区小中学校長情報連絡会		嵯山 浩人	出席
20		特定非営利法人城山スポーツ&カルチャークラブめいぷる		片倉 理恵	欠席
21		神奈川県立相模原城山高等学校		樋口 一孝	出席
22	有識者		部会長	金子 直美	出席
23				本野 直子	出席

①は高齢者とともに築き支える地域づくり部会 出席者数 19人
 ②は子どもたちの主体性を育む地域づくり部会 欠席者数 4人

第118回城山地区まちづくり会議 全体会次第

日 時 令和7年7月31日（木）
午後7時
会 場 城山総合事務所本館
2階B会議室

1 開 会

2 代表あいさつ

3 議 題

(1) 令和7年度城山地区まちづくりを考える懇談会について 資料

(2) 城山地区で具現化していく取組について（部会検討） 資料

4 その他

・各構成団体からの連絡事項等

5 閉 会

<次回の予定>		
第119回全体会	<u>9月25日（木）午後7時</u>	城山総合事務所 本館2階B会議室

役員からの周知事項

1.まちづくり懇談会について

まちづくり懇談会では、行政に対して要望を伝えるだけでなく、課題解決に向けた具体的な提案や具体的な行動計画を提示し、より建設的な対話ができるように進めて行きたいと考えています。そのためには、地域の住民や団体が主体となることができることを考え、その上で、地域だけでは解決が難しいことについて、行政に具体的な支援を求めるなど、地域と行政が一体となりどのような取り組みができるかについて懇談を実施したいと思っております。

2.まちづくり懇談会に係る【テーマ】について

前回の会議において、まちづくり懇談会のテーマについては役員会で選定することとなっていたことから役員会で協議した結果、子育て世代と地域がつながるような場所があれば良いとの意見があったため、『(仮)地域の居場所づくり』をテーマとさせていただきました。

3.今回(R7.7.31)のまちづくり会議の進め方について

今回の会議では、まちづくり懇談会のテーマ『(仮)地域の居場所づくり』を題材に話したいと思っております。

地域に居場所をつくる取り組みとして、具体的に「地域でできること」、「地域と行政で協働でできること」を考え、その上で「行政の支援を求めること」を具体的に提示できるように意見を集約したいと考えています。

また、意見の集約については、グループ（2班）に分かれて討議を行い、各班の意見として集約していく方法で会議を進める予定です。

そのため、各構成団体の意見をお伺いしたいと思いますのでご協力をお願いします。

< 別添資料 >

※別紙1：イメージとして、『まちづくり懇談会に向けた「城山まちづくり会議」のまとめ(たたき台)』を作成しました。このまとめを懇談会の開催前までに完成させ、まちづくり会議内で認識を共有するとともに、地域の取り組みとして行政へ提示しながら、まちづくり懇談会で対話をしていきたいと考えています。

※別紙2：懇談会のテーマに係る前回(R7.5.29)の会議で出た主な意見をまとめたものです。課題解決に向けた取り組みを考える際に参考としてください。

※別紙3：グループ討議について、説明とお願いをさせていただきます。

前回（R7.5.29）の会議で出た主な意見

【概要】部分に係る意見

- 子育て支援について「温かく見守ってほしい」との説明があったが、地域の特色などを踏まえ城山地域としてどのような支援をするべきか、市としての考えがあるのか。
- 各地域の特色もあるが市全体として、子育て世代の方々は孤立しがちという部分があるので、地域の方々には、声掛けや困りごとがあれば手を差し伸べていただくなどの支援をお願いしたい。
- 子どもから高齢者まで、いつでも誰でも目的もなく集まり時間を過ごせるような居場所が欲しい。若葉台で実施している『YY（わいわい）若葉』は、誰が行っても良いので女性だけではなく男性の方も利用している事例がある。目的を設定して事業を実施しても男性の参加が少ないので、目的もなくただふらっと立ち寄り時間つぶしができる居場所が各地域にあると良いと思う。
- 子育て中の親へ焦点を当てた意見交換を行いたいと考えている。子育て中の親が抱える悩みや負担について、相談をしたくても周りに話す人がいない場合などがあり、孤独を感じている人もいる。このような人を集め、一緒にボランティア活動をしたり、面白いことを企画したりするなど、地域と繋がる機会をつくるような取り組みが出来たら良いと思っている。子育て中の親が抱える悩みや負担を軽減し、元気に明るい気持ちで子育てができるように、地域全体で子育てを支援する環境を整備し、親と地域が繋がりを持つことによって、子どもも自然に地域に繋がると考えられる。

※【取り組み】部分に係る意見は裏面です。

【取り組み】部分に係る意見

1.地域でできること

- 情報提供になるが、城山地区民生委員・児童委員協議会でも主幹事業として、毎月第1月曜日に公民館で『子育てサロンマッシュマロクラブ』を実施しているので、地域で子育て最中の方がいればお声掛けをお願いしたい。
- 実際に事業を行うには実行部隊や費用が必要となるが、地域活性化事業交付金の活用以外に予算がない。また、まちづくり会議が提示した地域課題の解決への取り組みをしている団体へ地域活性化事業交付金を交付し、事業を実施してもらっているが、まちづくり会議において各団体の活動内容を把握していないと実行力がない。
- 子ども部会や高齢者部会で活動していることは必要なことであるが、現在の活動が本当に地域の課題解決に繋がっているのか疑問である。この認識は、各委員でバラバラかと思うので、まちづくり会議で協議し共通認識を図りたいと考えている。
- 子どもの居場所づくりなど大変重要なことと考えるが、まちづくり懇談会において意見交換をする際、抽象的なテーマでは市側の回答も一般的な回答になり具体的な課題解決に繋がらない可能性がある。城山地域の課題を明確にし、具体的なテーマで意見交換した方が有効的な回答を得られると思う。

2.行政と協働してできること

- 空き家を活用した居場所づくりについて、地域で空き家に係る実態を把握するとともに、市で把握している空き家の活用事例や補助金制度の有無などの情報を伺いながら懇談しても良いと思う。

3.行政に支援を求めること

- 子育て世帯が住みやすく住みたいと思える自治体では、子育て支援が充実している傾向にあり、その地域に住み続けることを促す大きな要因であると考え。今後は相模原市においても人口が減少する中、説明のあった事業を充実させ、市外の方が相模原市に住みたいと思ってもらえるような市になるように取り組みを進めて頂きたい。
- 市は地域の課題解決に向けた活動に対し、地域のボランティア精神に甘えすぎているのではないか。現状では、地域で活動している委員や実行委員を見ても同じ顔ぶれでありみんな苦勞をしている。また、高齢化が進む中、若い人の担い手がないという課題もある。ボランティア精神の重要性もあるかとは思いますが、地域活動の持続可能性や担い手確保のためには、地域に資する活動に対し適切な対価（報酬や謝礼）を支払うことも重要であると考えているが、市の意見を聞いてみたい。

グループ討議について

○テーマ：『(仮) 地域の居場所づくり』

○進め方：2つのグループに分かれて30～45分程度話し合ってください。
その後、各班の意見を集約した上で、質疑応答の時間を取ります。
まちづくり会議の代表が総括し、各班の進捗などを確認します。
また、副代表が各班のリーダーとして司会進行を行います。

○内 容：討議内容については、『(仮) 地域の居場所づくり』を実現するために、地域の住民や団体が主体となることができることを考え、その上で、地域だけでは解決が難しい場合、行政にどのような支援を求めるかについて討議をお願いします。

○集 約：各グループ討議の結果について、意見を集約していただきます。

注) 意見の集約については抽象的ではなく、課題解決の実現に向け具体的に建設的な意見として集約してください。

< 項 目 >

1. 地域（各所属の構成団体等）でできること
2. 地域（各所属の構成団体等）と行政で協働してできること
3. 行政に支援を求めること

○お願い：懇談会のテーマに係る取り組みについて、まちづくり会議の構成団体としてできることをご検討ください。なお、グループ討議時の意見としてお伺いしたいと思います。（別紙1ウ.【取り組み】参照）

1. 地域（各所属の構成団体等）でできること

--

2. 地域（各所属の構成団体等）と行政で協働してできること

--

3. 行政に支援を求めること

--

グループ討議 振り分け

番号	分野	団体名	役職等	委員氏名	グループ
1	地域関係	城山地区自治会連合会（会長）	代表	林 和博	総括
2		城山地区自治会連合会（副会長）		中野 秀人	A
3		城山地区自治会連合会（副会長）		安西 勝正	B
4		城山地区自治会連合会（川尻小学校区）		神藤 元	A
5		城山地区自治会連合会（湘南小学校区）		高橋 章	B
6		城山地区自治会連合会（広陵小学校区）		渡辺 政茂	A
7		城山地区自治会連合会（広田小学校区）		渋谷 隆	B
8	保健・福祉関係	城山地区社会福祉協議会	副部長	小島 盛生	A
9		城山地区民生委員児童委員協議会	副代表	菅野 敬子	Aリーダー
10		城山地区シニアクラブ連合会		阿部 晃三	B
11		相模原市赤十字奉仕団城山分団	部会長	宗田 真理子	A
12		城山地域包括支援センター		林 多加史	B
13	産業・経済関係	城山商工会		平栗 文夫	A
14		城山観光協会		櫻井 かおる	B
15	防犯・防災関係	安全・安心まちづくり推進協議会城山支部		杉本 直宏	B
16		相模原市消防団北方面隊		田野倉 隆彦	A
17	教育関係	城山公民館運営協議会	副代表	高野 朝枝	Bリーダー
18		城山体育振興協議会		樋口 保	B
19		城山地区小中学校長情報連絡会		崑山 浩人	A
20		特定非営利法人城山スポーツ&カルチャークラブめいぶる		片倉 理恵	B
21		神奈川県立相模原城山高等学校		樋口 一孝	A
22	有識者		部会長	金子 直美	B
23				本野 直子	A

高齢者とともに築き支える地域づくり部会 検討事項

- 1 今までの部会の活動の振り返り
- 2 おせっかいのバンダナの配布方法の検討